

ESPフォーキャスト調査 質問票  
2021年1月調査 (1月13日頃公表予定)  
(回答の送信期限:1月7日12時)

機関名:

フォーキャスター氏名:

- とりよめの際のフォーキャスター一覧の機関名、肩書、氏名等の記載を変更する場合は、お書き添えください。
- 数字は半角で打ち込んでください。

I-(1) 年度(米国、中国、ユーロ圏のGDP、NY原油価格)は(暦年)

年度	名目GDP	実質GDP	実質民間最終消費支出	実質民間住宅投資	実質民間企業設備投資	実質民間在庫変動	実質政府最終消費支出	実質公的固定資本形成	実質公的在庫変動	実質対外サービスの輸出	実質対外サービスの輸入	鉱工業生産指数	経常収支	消費者物価(生鮮食品除く総合)	完全失業率	名目賃金指数	国債流通利回り(10年物)	日経平均株価	マネー・ストック(新M2)	円相場(対米ドル)	米国実質GDP(暦年)	NY原油価格(WTIドル/バレル)(暦年)	中国実質GDP(暦年)	貿易収支(通関ベース)	ユーロ圏実質GDP(暦年)
	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	増減率%	兆円	上昇率%	%	%	%	円	円	円	増減率%	期中平均	増減率%	兆円	増減率%
2019 実績	0.5	▲ 0.3	▲ 0.9	2.5	▲ 0.6	▲ 0.1	2.0	1.5	0.0	▲ 2.6	▲ 1.2	▲ 3.8	20.1	0.6	2.3	0.0	▲ 0.11	21890	2.6	108.7	2.2	57.0	6.1	▲ 1.3	1.3
2020 予測																									
2021 #																									
2022 #																									

注:①国債流通利回り、日経平均株価、円相場、NY原油価格は、いずれも「営業日平均」②名目賃金指数は、毎月勤労統計調査の事業所規模5人以上(パートタイム労働者を含む)の現金給与総額

I-(2) 予測値の主観的な分布

実質GDP増減率

(例) x年度予測	x ± 15	-15 < x ≤ -10	-10 < x ≤ -5	-5 < x ≤ 0	0 < x ≤ 5	5 < x ≤ 10	10 < x ≤ 15	15 < x ≤ 20	20 < x ≤ 25	25 < x ≤ 30	30 < x ≤ 35	35 < x ≤ 40	40 < x ≤ 45	45 < x ≤ 50	50 < x ≤ 55	55 < x ≤ 60	60 < x ≤ 65	65 < x ≤ 70	70 < x ≤ 75	75 < x ≤ 80	80 < x ≤ 85	85 < x ≤ 90	90 < x ≤ 95	95 < x ≤ 100	合計値
2020 予測																									100
2021 #																									0
2022 #																									0

CPI(生鮮食品除く総合)上昇率

(例) x年度予測	x ± 4	-4 < x ≤ -3.75	-3.75 < x ≤ -3.5	-3.5 < x ≤ -3.25	-3.25 < x ≤ -3	-3 < x ≤ -2.75	-2.75 < x ≤ -2.5	-2.5 < x ≤ -2.25	-2.25 < x ≤ -2	-2 < x ≤ -1.75	-1.75 < x ≤ -1.5	-1.5 < x ≤ -1.25	-1.25 < x ≤ -1	-1 < x ≤ -0.75	-0.75 < x ≤ -0.5	-0.5 < x ≤ -0.25	-0.25 < x ≤ 0	0 < x ≤ 0.25	0.25 < x ≤ 0.5	0.5 < x ≤ 0.75	0.75 < x ≤ 1	1 < x ≤ 1.25	1.25 < x ≤ 1.5	1.5 < x ≤ 1.75	1.75 < x ≤ 2	2 < x ≤ 2.25	2.25 < x ≤ 2.5	2.5 < x ≤ 2.75	2.75 < x ≤ 3	3 < x ≤ 3.25	3.25 < x ≤ 3.5	3.5 < x ≤ 3.75	3.75 < x ≤ 4	合計値			
2020 予測																		5	15	20	30	20	10														100
2021 #																																					0
2022 #																																				0	

II. 四半期

四半期	実質GDP		実質民間最終消費支出	実質民間企業設備投資	実質対外サービスの輸出	実質対外サービスの輸入	消費者物価(生鮮食品除く総合)	完全失業率	円相場(対ドル)	株価(日経平均)	鉱工業生産指数
	前年同季比 %	前期比 %	前年同季比 %	前期比 %	前年同季比 %	前期比 %	前年同季比 %	%	期末、円	期末、円	前期比 %
2020 I 実績	▲ 2.1	▲ 0.5	▲ 0.6	1.4	▲ 5.3	▲ 3.1	0.6	2.4	108.4	18917	0.4
2020 II #	▲ 29.2	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 5.7	▲ 17.1	1.4	▲ 0.1	2.8	107.7	22288	▲ 16.9
2020 III #	22.9	5.3	5.1	▲ 2.4	7.0	▲ 8.8	▲ 0.2	3.0	105.8	23185	8.7
2020 IV 予測											
2021 I #											
2021 II #											
2021 III #											
2021 IV #											
2022 I #											
2022 II #											
2022 III #											
2022 IV #											
2023 I #											

III. 総合景気判断DI

- 総合景気判断として、各期ごとに「上昇」、「横ばい」、「下降」のいずれかを選択し、以下の該当する欄に「○」を入力してください。

	総合景気判断		
	上昇	横ばい	下降
2020 IV 予測			
2021 I #			
2021 II #			
2021 III #			
2021 IV #			
2022 I #			
2022 II #			
2022 III #			

参考: 景気動向指数DI(一致指数)の動きを想定して、以下のご判断ください。  
当期のDIが50超であると思われる場合 → 「上昇」  
当期のDIが50未満であると思われる場合 → 「下降」  
当期のDIが50近傍、または明確な動きにないと思われる場合 → 「横ばい」

IV. 20年10~12月期の成長率(その他項目)

- 「II」の項目以外の前期比伸び率が、「上昇(伸び率の符号はプラス)」、「ほぼゼロ」、「低下(伸び率の符号はマイナス)のいずれかを選択し、以下の該当する欄に「○」を入力してください。在庫変動については、前期比伸び率ではなく、実質GDP成長率に対する寄与度についてお答えください。

(実質)	前期比伸び率		
	上昇	横ばい	低下
民間住宅投資			
民間在庫変動(寄与度)			
公的固定資本形成			
政府最終消費			
公的在庫変動(寄与度)			

V. 景気の転換点

- 政府見解では2018年10月が景気の山(暫定)となっています。その次の景気の転換点(谷)はもう過ぎたとお考えですか。

(1) 「はい」、「いいえ」の一方に「○」を入力してください。

はい	いいえ
----	-----

(2) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。今後1年以内に景気の転換点(谷)がくる確率はどの位あると予測していますか。%で記入して下さい。

転換点(谷)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入して下さい。

年:  月:  %:

(3) ●(1)で「はい」の場合にお答え下さい。その次の景気の転換点(山)はもう過ぎたとお考えですか。「はい」、「いいえ」の一方に「○」を入力してください。

はい	いいえ
----	-----

(4) ●(3)で「はい」の場合にお答え下さい。今後1年以内に景気の転換点(山)がくる確率はどの位あると予測していますか。%で記入して下さい。

転換点(山)はいつだったとお考えですか。"年(西暦4ケタ)"と"月"を記入して下さい。

年:  月:  %:

VI. 日銀の金融政策

(1) ● 日銀の政策金利・誘導目標の見通しについてお尋ねします。

2021年末、22年末の日銀の短期政策金利、長期金利の誘導目標・実勢金利はそれぞれどれくらいになると予想していますか。

以下のいずれかに“○”を入力してください。 **「現状維持」を予想される場合は、短期は「▲0.1%以上～0%未満」、長期は「0%以上～0.1%未満」をお選びください。**

		▲0.3%未満	▲0.3%以上 ～ ▲0.2% 未満	▲0.2%以上 ～ ▲0.1% 未満	▲0.1%以上 ～ 0% 未満	0%以上 ～ 0.1% 未満	0.1%以上 ～ 0.2% 未満	0.2%以上 ～ 0.3% 未満	0.3%以上 ～ 0.4% 未満	0.4%以上 ～ 0.5% 未満	0.5%以上 ～ 0.75% 未満	0.75%以上 ～ 1.0% 未満	1.0%以上 ～
短期政策金利 (現状 ▲0.1%)	21年末												
	22年末												
長期金利の誘導目標 (現状 0%程度)	21年末												
	22年末												
実勢の長期金利 (10年物国債流通利回り)	21年末												
	22年末												

(2) ● 枠組み自体の変更など(上記の補正も含む)があればご記入ください。

--

VII. (特別調査) 米国の政策金利

● 2021年末、22年末の米国の政策金利(FFレート・市場実勢値)はどれくらいになると予想していますか。

以下のいずれかに“○”を入力してください。

		▲1.0%未満	▲1.0%以上 ～ ▲0.75%未満	▲0.75%以上 ～ ▲0.5%未満	▲0.5%以上 ～ ▲0.25%未満	▲0.25%以上 ～ 0%未満	0%以上 ～ 0.25%未満	0.25%以上 ～ 0.5%未満	0.5%以上 ～ 0.75%未満	0.75%以上 ～ 1.0%未満	1.0%以上 ～ 1.25%未満	1.25%以上 ～ 1.5%未満	1.5%以上 ～ 1.75%未満	1.75%以上 ～ 2.0%未満	2.0%以上 ～ 2.25%未満	2.25%以上 ～ 2.5%未満	2.5%以上 ～ 2.75%未満	2.75%以上 ～ 3.0%未満	3.0%以上 ～ 3.25%未満	3.25%以上 ～ 3.5%未満	3.5%以上 ～ 3.75%未満	3.75%以上 ～	
米国のFFレート (現状0.00～0.25%)	21年末																						
	22年末																						

VIII. (特別調査) 景気のリスク

● 仮に現在が景気拡張局面だとすると、半年から1年後にかけて、景気上昇を抑える(あるいは景気を反転させる)可能性があるとしたら、要因は何だと思いますか。

重要なものに3つまで“○”を入力してください。また、よろしければ○を付けた理由を右欄にご記入ください。

	3つまで○	○を付けた理由
1.円高		
2.株安		
3.金利上昇		
4.原油価格の上昇		
5.公共投資の減少		
6.米国の景気の変化		
7.中国景気の変化		
8.IT部門(電子部品など)の悪化		
9.国内政治の不安定化		
10.国際関係の緊張や軍事衝突		
11.保護主義の高まり		
12.新型コロナウイルスの感染状況		
13.オリンピックの再延期・中止		
14.その他(具体的に→→→)		
15.原因になるものはない		

IX. (特別調査) オリンピック開催

(1) ● 今回の予測に、2021年度のオリンピック開催を繰り込んでいますか。

あてはまるものに“○”を入力してください。

はい		いいえ	
----	--	-----	--

(2) ● 「いいえ」の場合にお答えください。

繰り込んでいないのはなぜですか

あてはまるものに“○”を入力してください。(複数回答可)

1.開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	
2.再延期・中止の可能性も否めない	
3.その他(具体的に→→→)	

X. (特別調査) 新型コロナウイルス対策

● 新型コロナウイルス対策として2019・20年度の合計で日本の財政出動をどの程度想定していますか。

名目GDP比でお答えください。

名目GDP比		%
--------	--	---

XI. (特別調査) 経済対策の効果

● 「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」(2020年12月8日閣議決定)の需要押し上げ効果をどのように見込んでいますか。

この対策がなかった場合と比べて、実質GDP成長率(前年度比)が何%ポイント変化するか記入してください。

	2020年度	2021年度	2022年度
実質GDP成長率 (前年度比、%ポイント)			